

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	荒木 夏乃 【比較社会文化学専攻 平成24年度生】	<p>本論文は、今までにない視点から和辻哲郎の思想を読み解く独創的な研究である。一般的に和辻哲郎は、個人よりも国家の全体性に肩入れしたと考えられているが、本論文は「個性」「肉体」「恋愛」「情死」といった従来見落とされがちだった主題に着目することで、和辻哲郎の異なる側面に光を当てている。間柄を固定的に捉え、社会全体の中での役割に個人を埋没させるのではなく、全体性や社会通念に反する傾向をはらみ、しかも肉体に基礎を置いた人間関係が、重要な位置を占めていることを明らかにした。たとえば和辻哲郎が婚姻に関して、ヘーゲルに依拠しつつもヘーゲル以上に「恋愛」を特権視し、しかもそこで「肉体」の重要性を強調しているというのは、新しい和辻理解をもたらす指摘である。また『古事記』のスサノオをモデルとした「自然児」解釈や浄瑠璃における「情死」論において、和辻が社会の一般的な倫理的通念から逸脱するような振る舞いを肯定的に捉えているということも、本論文が明らかにした重要な論点である。このように、社会哲学や倫理学として和辻哲郎の思想を把握しようとする際には往々にして軽視されがちであったテーマにこだわり、和辻哲郎の思想についての新しい見方を提示しえている点が、審査委員会ではたいへん高く評価された。</p> <p>第一回目の審査委員会は12月15日に行われたが、そこでは議論の進め方や個々の論証の完成度の低さが指摘された。たとえば和辻哲郎の恋愛観を浮かび上がらせる際に比較の対象とされているヘーゲルの『法哲学』の理解が不十分であった点、和辻哲郎の前期から後期に至る「自然」概念の不変性の論証が欠けている点などに関して、大幅な再考察が求められた。</p> <p>1月13日に改稿が提出され、それをもとに各審査委員からコメントが出されたが、ここでは大幅な内容の見直しは要求されなかった。細かい字句の修正や多少の論述の改善を行ったうえで最終稿が作成され、これをもとに2月21日に最終試験がもたれた。公開発表の際には、「個別性」「個性」「個」「個人」といった用語が一貫した意味で用いられているかどうか、また「和辻哲郎は個を軽視している」といった見方に最終的にはどう答えるのかといった点が議論された。今後の課題の再認識も含めて有意義な応答がなされた。</p> <p>以上の経緯を経て全員一致で合格が認められた。</p>
論文題目	和辻倫理学における個性としての肉体の重要性 -自然児の恋愛をてがかりに-	
審査委員	(主査) 准教授 中野 裕考	
	准教授 三浦 謙	
	助教 宮下 聡子	
	准教授 谷口 幸代	
インターネット 公表	教授 頼住 光子 ○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 否) ○ 「否」の場合の理由 ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある <input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている ※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について	

